

安全で効率的な飛行経路で CO2 削減へ

対象国が自ら航空交通分野における効率化を図ることが出来るよう、
日本の経験と知識で支援します

国際協力機構(JICA)東京国際センターでは、来る6月7日(木)から7月13日(金)まで我が国との二国間協定に基づく対象国:モンゴル、ミャンマー、ネパール、タジキスタンからの研修員を受け入れ「PBN*飛行方式設計研修」を開催いたします。

途上国において今後も増大することが予測されている航空需要に安全を阻害することなく対応するためには、空港から出発又は到着する航空機に対して近年各国で導入されている新たな技術(GPS等の衛星を利用した航法)を使用した柔軟な飛行経路の設定が不可欠となります。この飛行経路の設計には、関連する基準や手法について精通する必要があり、それを目的に本研修を実施します。

まずは、JICA 東京国際センター(JICA 東京)にて概論や一般基準、手法を学び、次に、仙台国際空港を題材に演習を行い、実際に自分たちで現地調査をしてPBN 飛行方式に基づいた設計を行います。研修の後半は設計した飛行方式がどのようなプロセスを経て採用・運用されるかを学ぶため航空局の関連施設を見学します。

その中でも 6/28(木)仙台国際空港周辺現地調査では、PBN 飛行方式設計の技術習得だけに留まらず、調査地の一つである「千年希望の丘」にて、2011 年に未曾有の大災害となった東日本大震災についても知見を広めて頂きます。また、6/29(金)仙台国際空港視察では実際の現場での飛行経路の運用の概要についての説明を受けると共に、研修員各国の現況を紹介し、意見交換を行う予定です。

* PBN (性能準拠型航法 : Performance Based Navigation)

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 東京 経済基盤開発・環境課 岸 志津佳
TEL 03-3485-7652 e-mail : Kishi.Shizuka@jica.go.jp